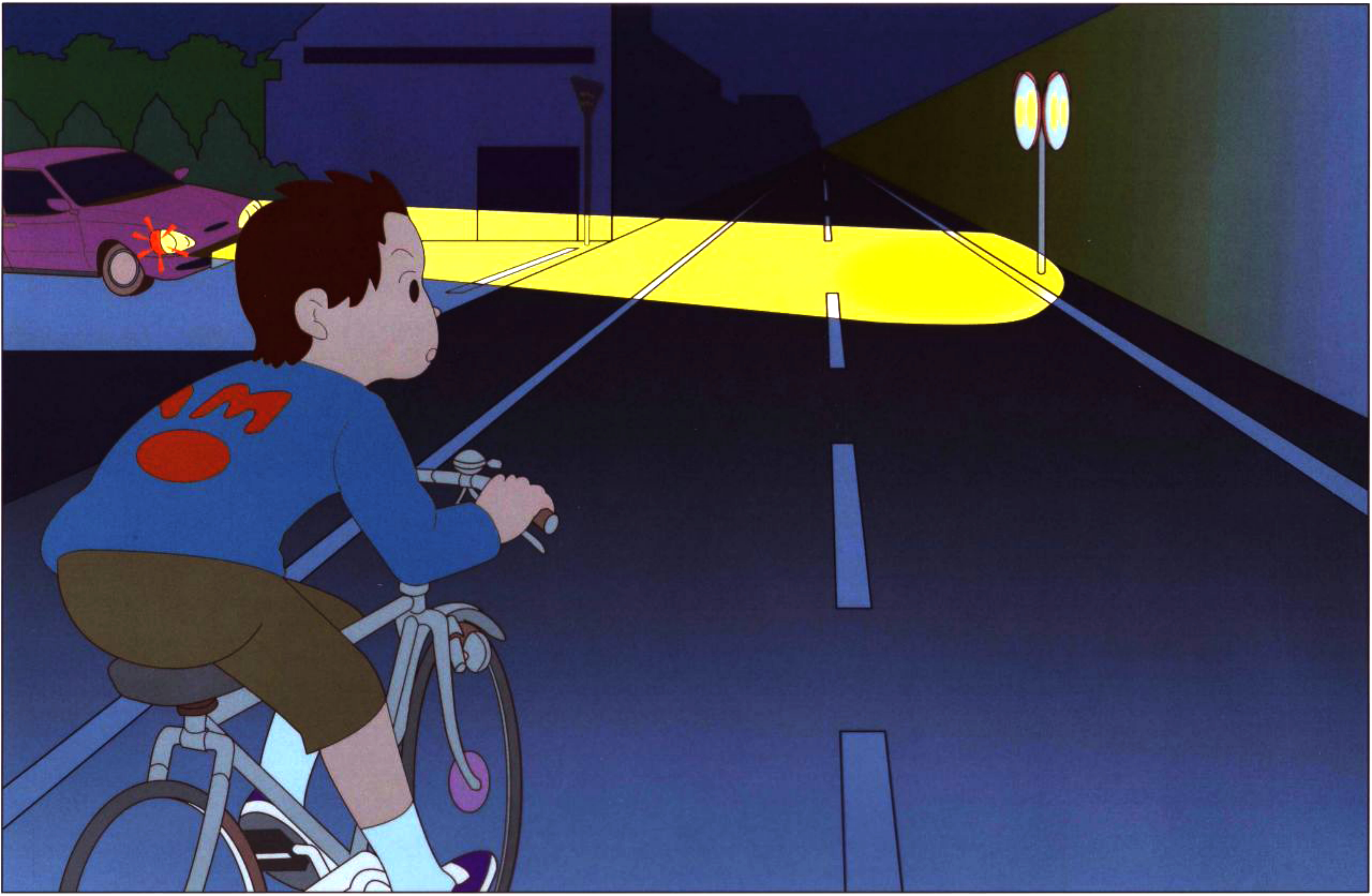




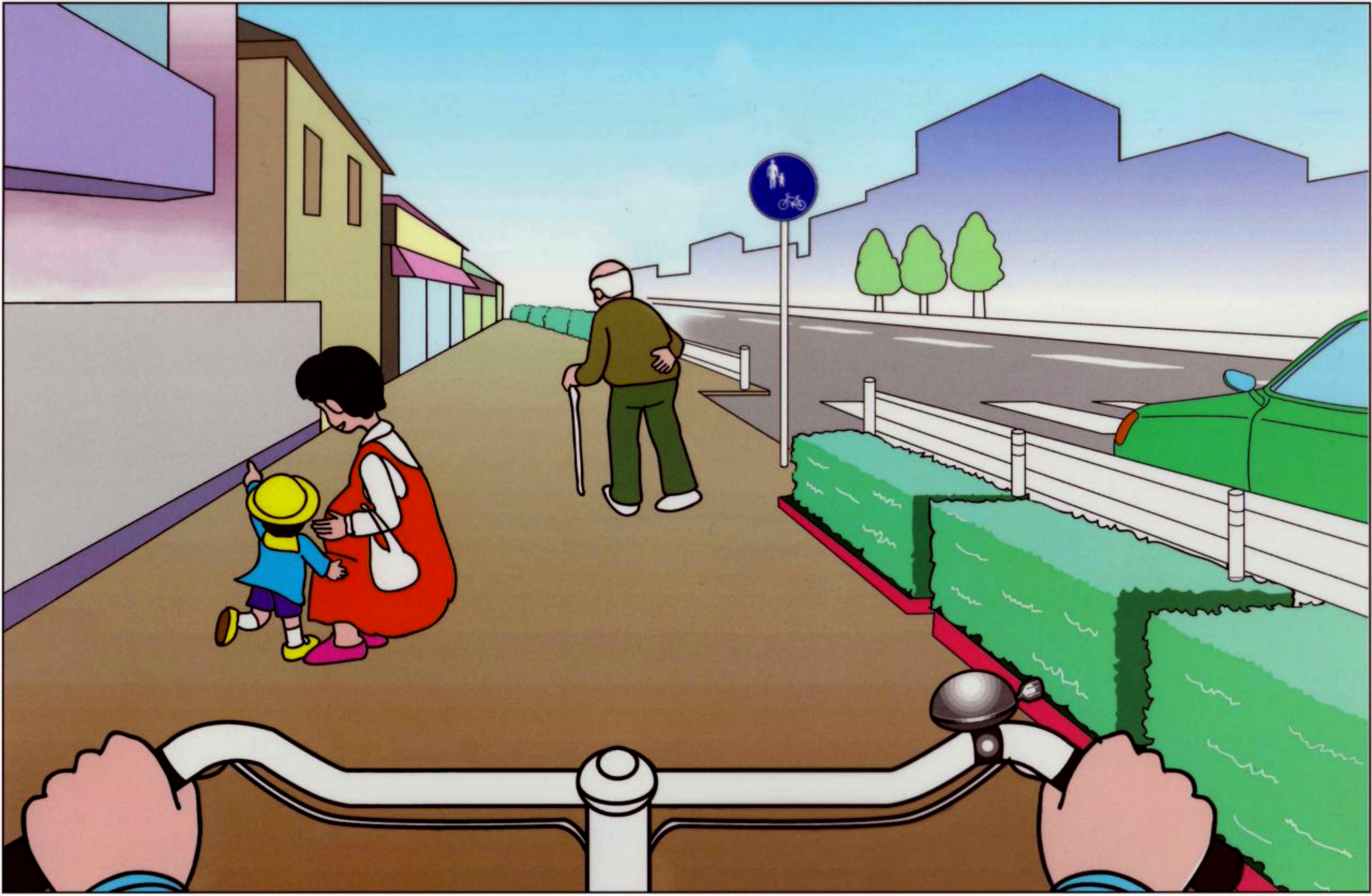
危険予測学習の進め方（例） — 無灯火運転の危険 —

学習内容	指導上の留意事項等
①交通状況の読み取り (個人～発表)	この絵はどんな場面だと思いますか。絵を見て考えられることを発表してください。 ・自らが自転車運転者の立場となって、状況を詳しく把握させる。 ・発表させる。 (道路の状況、運転者の状況、自転車の状況など) ・児童に次のような状況を読み取らせる。 夜間、無灯火でスピードを出して自転車に乗っている。 前方には左から交差点に近づいてきている自動車とヘッドライトの光が見え、その光がカーブミラーにも映っている。 自動車は右折しようとしている。
②危険の予測・重大な危険の絞り込み (発表～話し合い)	このまま進んだら、どのようなことが起きると思いますか。 ・この場面で起こり得る事故やありそうな危険をできるだけ多く予測させ、板書する。その理由も述べさせる。 ・どのような意見でも肯定的に受容する。 ・優先道路を走っている自転車運転者の心理、自動車運転者の無灯火自転車への認知の有無についてしっかり考えさせたい。 「ありそうな危険・起こりそうな事故」のなかで、重大（大変）だと思う危険・事故を選びましょう。 ・ワークシートを用いて、◎や○を付けさせるのもよい。
③回避方法の考察	そのような事故にあわないためにはどうしたらいいですか。 ・絞り込まれた危険・事故に対し、どのようにしたら危険が回避できるか、話し合わせる。 ・運転者が陥りやすい心理なども考え、ふさわしい行動を話し合わせる。 ・選んだ回避方法の理由を明らかにさせる。
④まとめ	これから気を付けることを自分の言葉で短くまとめましょう。 ・「ワンポイント行動目標」として一言でまとめさせる。 例：「夜間は必ずライトを点灯する」「交差点の手前では減速する」等

※ 一斉学習だけでなく、導入後、4、5人のグループに分けて、①②③の活動を行い、最後に、グループごとにまとめを発表させる方法もよい。

※ グループで進める場合は、簡単なワークシートを作成し記入させるとよい。

安全上の望ましい行動	① ライトを付けることは、路面を照らす役割と同時に、自らの存在を他の通行車両や歩行者に知らせるという大きな意味がある。 そのことが自らの命を守ることにつながる。 ② 薄暮時や夜間などに自転車で行くするには、安全のために必ずライトを点灯し、道路上の障害物や異常を確認する必要がある。 ③ 無灯火の場合、自転車から車両はよく見えていても、無灯火で走る自転車は車両からほとんど見えず認識されない。また、点灯している場合でも、対向車がある場合はそのライトがまぶしくて、運転者は自転車や歩行者を見落とす場合がある。 ④ 自転車は、車両の一種なので、夜間は必ずライトを付けるようにする。（教則第3章第2節2(13)参照） ⑤ 特に、夜間では、交差点の手前で減速し、車両との衝突を避ける。（教則第3章第2節3(2)参照）
------------	--



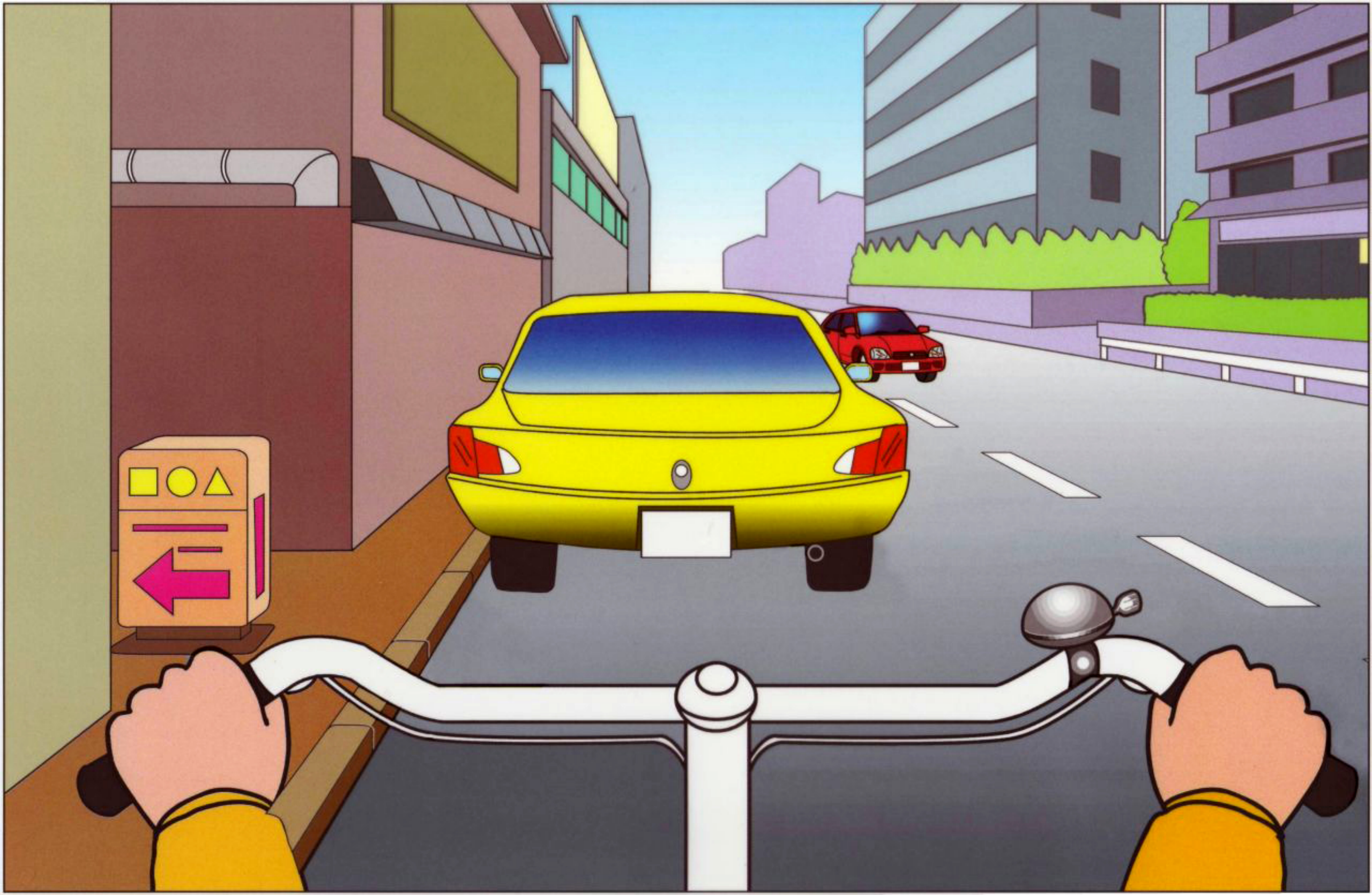
危険予測学習の進め方（例） — 歩道走行の危険 —

学習内容	指導上の留意事項等
①交通状況の読み取り (個人～発表)	この絵はどんな場面だと思いますか。絵を見て考えられることを発表してください。 ・自らが自転車運転者の立場となって、状況を詳しく把握させる。 ・発表させる。 (歩道の状況、歩行者の状況、自転車の状況など) ・児童に次のような状況を読み取らせる。 自転車通行可の歩道を走行している。 前方には幼児を連れたお母さんと高齢者がいる。 スピードはある程度出ており、これから親子と高齢者をかわしながら進もうとしている。
②危険の予測・重大な危険の絞り込み (発表～話し合い)	このまま進んだら、どのようなことが起きると思いますか。 ・この場面で起こり得る事故やありそうな危険をできるだけ多く予測させ、板書する。その理由も述べさせる。 ・どのような意見でも肯定的に受容する。 ・歩行者は、歩道は歩行者のものと安心してゐる。歩行者が自転車に気付いたとしても、自転車の速度が速いと、どう避けたらよいかを判断する余裕がなく、思いもよらぬ行動をしてしまうことも予測させたい。 「ありそうな危険・起こりそうな事故」のなかで、重大（大変）だと思う危険・事故を選びましょう。 ・ワークシートを用いて、◎や○を付けさせるのもよい。
③回避方法の考察	そのような事故にあわないためにはどうしたらいいですか。 ・絞り込まれた危険・事故に対し、どのようにしたら危険が回避できるか、話し合わせる。 ・運転者や歩行者が陥りやすい心理なども考え、ふさわしい行動を話し合わせる。 ・選んだ回避方法の理由を明らかにさせる。
④まとめ	これから気を付けることを自分の言葉で短くまとめましょう。 ・「ワンポイント行動目標」として一言でまとめさせる。 例：「歩道では歩行者をよく観察」「歩道は徐行。必要があれば一旦停止」等

※ 一斉学習だけでなく、導入後、4、5人のグループに分けて、①②③の活動を行い、最後に、グループごとにまとめを発表させる方法もよい。

※ グループで進める場合は、簡単なワークシートを作成し記入させるとよい。

安全上の望ましい行動	① 自転車は歩道を通行できるのは、「標識等で指定された場合」「運転者が児童（6歳以上13才未満）、幼児（6歳未満）等の場合」「安全上やむを得ない場合」である。歩道を通行する場合は、自転車は車道側を徐行するとともに、車両である自転車は、歩行者にとって凶器となり得ることを十分認識しておく必要がある。（教則第3章第2節1(4)参照） ② 危険回避のためであっても、歩行者の近くでベル等を鳴らすなど、歩行者を驚かせることがないよう、ゆとりのある、思いやりをもった優しい走行をする。（教則第3章第2節2(12)参照） ③ 歩道上では、歩行者は急に向きを変えたり、走り出したり、止まったりするので、歩行者の様子をよく観察することが必要である。 ④ 無理に歩行者を追い抜こうとせず、歩行者の通行を妨げそうになるときには、一時停止をしたり、自転車を押して歩く。（教則第3章第2節2(8)、4(1)(5)参照） ⑤ 歩行者に恐怖感や不快感を与えるなど、迷惑にならないように配慮する。
------------	--



危険予測学習の進め方（例） — 停車車両の追い越しの危険 —

学習内容	指導上の留意事項等
①交通状況の読み取り (個人～発表)	この絵はどんな場面だと思いますか。絵を見て考えられることを発表してください。 ・自らが自転車運転者の立場となって、状況を詳しく把握させる。 ・言葉で表現し、発表させる。 (道路の状況、周囲の車両の状況、自転車の状況など) ・児童に次のような状況を読み取らせる。 停車中の車の車道側を追い越そうとしている。歩道は狭く通れない。 反対車線には車が見える。本人は、急いでおり、スピードが出たまま、車の脇をすり抜けようとしている。
②危険の予測・重大な危険の絞り込み (発表～話し合い)	このまま自転車で車を追い越すと、どのようなことが起きると思いますか。 ・この場面で起こり得る危険・事故をできるだけ多く発見・予測させ板書する。その理由も述べさせる。 ・どのような意見でも肯定的に受容する。 ・車の運転者の立場に立った危険性も予測させたい。 「ありそうな危険・起こりそうな事故」のなかで、重大（大変）だと思う危険・事故を選びましょう。 ・ワークシートを用いて、◎や○を付けさせるのもよい。
③回避方法の考察	そのような事故にあわないためにはどうしたらいいですか。 ・絞り込まれた危険・事故に対し、どのようにすると危険が回避できるか、話し合わせる。 ・運転者が陥りやすい心理なども考え、ふさわしい行動を話し合わせる。 ・選んだ回避方法の理由も明らかにさせる。
④まとめ	これから気を付けることを自分の言葉で短くまとめましょう。 ・「ワンポイント行動目標」として一言でまとめさせる。 例：「前と後ろの車に気を付ける」「車を追い越す時はゆっくり進む」等

※ 一斉学習だけでなく、導入後、4、5人のグループに分けて、①②③の活動を行い、最後に、グループごとにまとめを発表させる方法もよい。

※ グループで進める場合は、簡単なワークシートを作成し記入させるとよい。

安全上の望ましい行動	① 停車車両の横を通行するときは、後方から来る車や前方から来る車と衝突する危険性がある。 停車車両がある場合は、できるだけ車両の左側を通行する。また、歩道へ入ることができるところであれば、無理をせずに安全に歩道を押して歩く。(教則第3章第2節1(4)、2(9)参照) ② やむなく右側を通行するときは、必ず一時停止し、後方・前方の車両について安全確認を十分に行う。その上で通行する。 ③ 後方から車両が来ている場合は、その車両が通過してから通行する。 ④ 停車車両を降りる人は、後方の交通を十分確認しないままドアを開ける場合がある。また、停車している車が急に発進したり、バックしたりすることも考えられる。 このため、必ずスピードを落として、危険を予測し、安全を確認し通行する。(教則第3章第2節4(3)参照) ⑤ 車両の陰から人が飛び出したりすることも予測されるので、十分注意する。(教則第3章第2節4(3)参照)
------------	--



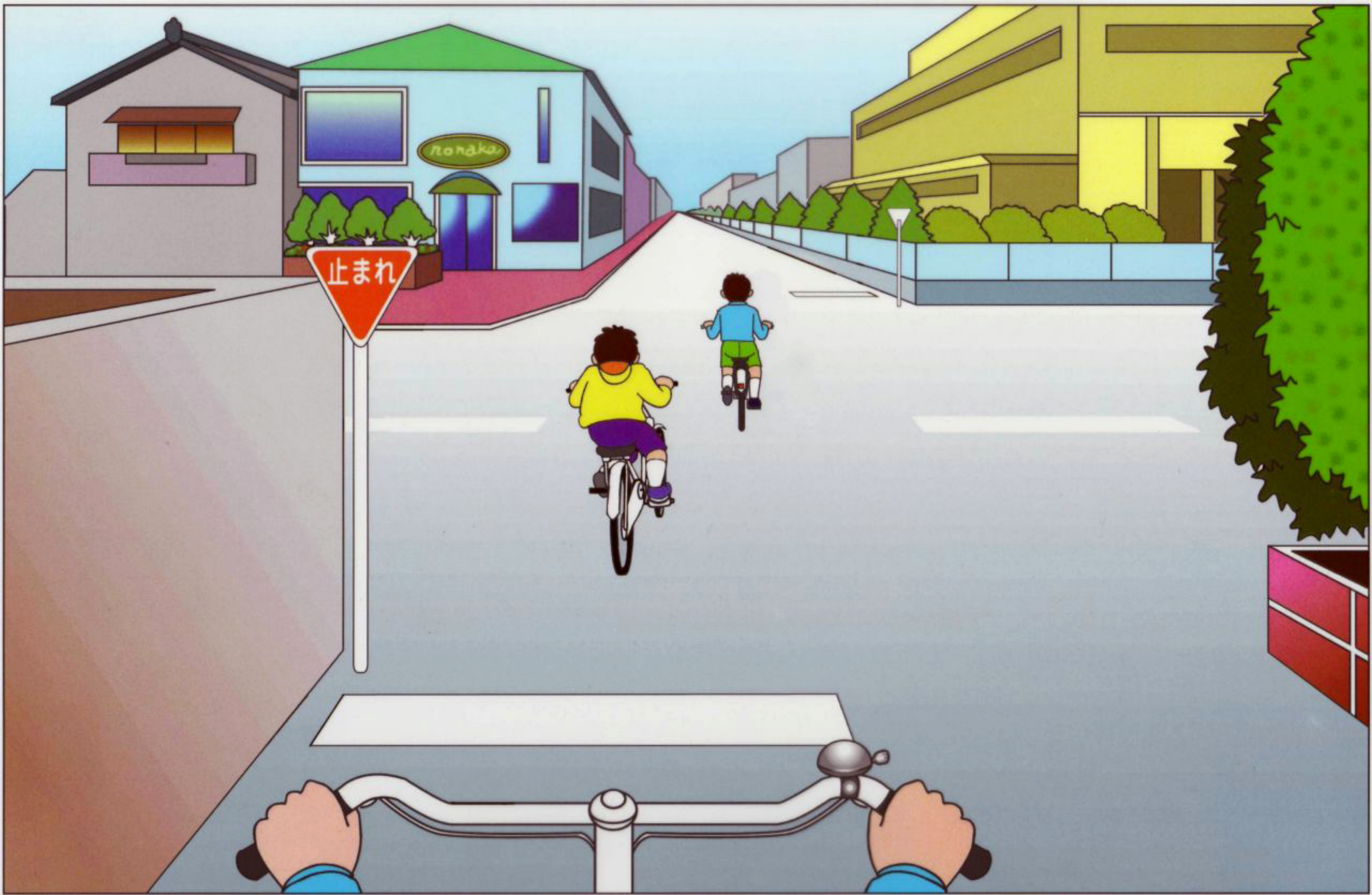
危険予測学習の進め方（例）－ 減速した車両の左側を追い抜く危険 －

学習内容	指 導 上 の 留 意 事 項 等
①交通状況の読み取り (個人～発表)	この絵はどんな場面だと思いますか。絵を見て考えられることを発表してください。 ・自らが自転車運転者の立場となって、状況を詳しく把握させる。 ・言葉で表現し、発表させる。 (道路の状況、自転車の状況、周囲の車両の状況など) ・児童に次のような状況を読み取らせる。 自転車で交差点の手前を直進している。歩道は狭く通れない。 少し前を走る車が急に減速した。 急ぐ気持ちが強く、減速した車の左側をスピードを上げて、通り過ぎたいと考えている。
②危険の予測・重大な危険の絞り込み (発表～話し合い)	このまま進んだら、どのようなことが起きると思いますか。 ・この場面で起こり得る危険・事故をできるだけ多く発見・予測させ、その理由を述べさせる。 ・どのような意見でも肯定的に受容する。 ・車の運転者の立場に立った危険性も予測させたい。 ・目の前の車だけでなく、この車の前に右折する車などがいる可能性もあることを是非取り上げたい。 「ありそうな危険・起こりそうな事故」のなかで、大変だと思う危険・事故を選びましょう。 ・ワークシートを用いて、◎や○を付けさせるのもよい。
③回避方法の考察	そのような事故にあわないためにはどうしたらいいですか。 ・絞り込まれた危険・事故に対し、どのようにしたら危険が回避できるか、話し合わせる。 ・運転者が陥りやすい心理なども考え、ふさわしい行動を話し合わせる。 ・選んだ回避方法の理由を明らかにさせる。
④まとめ	これから気をつけることを自分の言葉で短くまとめましょう。 ・「ワンポイント行動目標」として一言でまとめさせる。 例：「前方の車が減速した時は、徐行・停止する」「車を先に行かせる」等

※ 一斉学習だけでなく、導入後、4、5人のグループに分けて、①②③の活動を行い、最後に、グループごとにまとめを発表させる方法もよい。

※ グループで進める場合は、簡単なワークシートを作成し記入させるとよい。

安全上の望ましい行動	① 前方の車両が減速したり停止したりすることは、その車両が左折する場合の他にも、他の車両や歩行者が近づいてきているなど、何らかのサインであることを知っておく。 この場合、危険を予測し、よく周囲を確認する必要がある。(教則第3章第2節2(4)参照) ② 減速した車両に対し、自転車がそのまま直進し、左折する車両に巻き込まれるという典型的な事故が多く発生している。 減速したのは、何らかのサインと考え、スピードを落とし、必要な場合は停止し、左折車を先に行かせる。 ③ 左折車両はウinkerを出さないときや、曲がる直前に出すことがあることを知っておく。 ④ 車両の運転者からは、見えにくい死角(車の斜め後ろ方向)があることを知っておく。 ⑤ 大型車両が左折する場合は、たとえ手前で止まっても、内輪差により巻き込まれる事故の例があり、それを予測する必要がある。
------------	--



危険予測学習の進め方（例） — グループ走行の危険 —

学習内容	指導上の留意事項等
①交通状況の読み取り (個人～発表)	この絵はどんな場面だと思いますか。絵を見て考えられることを発表してください。 ・自らが自転車運転者の立場となって、状況を詳しく把握させる。 ・発表させる。 (道路の状況、運転者の状況、自転車の状況など) ・児童に次のような状況を読み取らせる。 友達たちが横切っているのは、2車線の優先道路である。 左右には塀などがあるため見通しが悪くなっている。友達の自転車は既に交差点に入っており、運転者は、2人を追って急いで交差点の中に入ろうとしている。
②危険の予測・重大な危険の絞り込み (発表～話し合い)	このまま進んだら、どのようなことが起きると思いますか。 ・この場面で起こり得る事故やありそうな危険をできるだけ多く予測させ、板書する。その理由も述べさせる。 ・どのような意見でも肯定的に受容する。 ・自転車運転者の心理、友達が横断する際の交通状況とこれからの状況、2車線の優先道路を通行する車両の運転者の心理をしっかりと考えさせる。 「ありそうな危険・起こりそうな事故」のなかで、重大(大変)だと思う危険・事故を選びましょう。 ・ワークシートを用いて、◎や○を付けさせるのもよい。
③回避方法の考察	そのような事故にあわないためにはどうしたらいいですか。 ・絞り込まれた危険・事故に対し、どのようにしたら危険が回避できるか、話し合わせる。 ・運転者が陥りやすい心理なども考え、ふさわしい行動を話し合わせる。 ・選んだ回避方法の理由を明らかにさせる。
④まとめ	これから気を付けることを自分の言葉で短くまとめましょう。 ・「ワンポイント行動目標」として一言でまとめさせる。 例：「一時停止線で必ず止まる」「見通しが悪い四つ角は必ず止まる」等

※ 一斉学習だけでなく、導入後、4、5人のグループに分けて、①②③の活動を行い、最後に、グループごとにまとめを発表させる方法もよい。

※ グループで進める場合は、簡単なワークシートを作成し記入させるとよい。

安全上の望ましい行動	① 自転車の運転者が、交差点であることをすっかり忘れていたり、前方の友達を見て、自分も「行ける」と勝手に判断してしまうことが、事故につながる。 このため、つられて行動せずに、自分の目で安全を確かめてから行動する。 ② 2車線の優先道路を走行する車両は、ほとんどの場合、一時停止の標識のある側が止まってくれるものと思い、スピードを落とさず走行する。 このため、優先道路に出る際は、必ず一時停止線で停止する。(教則第3章第2節3(2)参照) ③ 友達が横断した時と、今とでは、交通の状況が変わっている可能性があることを考え、必ず見通しの悪い交差点では、一旦止まって状況をよく確認する。 ④ 「たぶん車は来ないだろう」と安易に予想するのではなく、常に「来ているかもしれない」と予想して通行することが、自分の命を守ることにつながる。
------------	--